

第2回

うつくしま育樹祭



▲間伐作業のようす

10月23日、「村民の森 あいの沢」にて「第2回 うつくしま育樹祭」が行われ、緑の少年団や各種団体の関係者、応募の親子ら401人が参加し、育樹活動等を通して森林の大切さを学びました。

この育樹祭は、森林に親しみ、守り育てる心を共有しながら県民参加による森林づくり運動を推進しようと、県緑化推進委員会や県林業協会などで行う実行委員会（会長・佐藤栄佐久県知事）が昨年に続いて開催したものです。

開会式では、はじめに大会会長の佐藤知事が「先人が大切に守り、そして私たちを育んできた森の大切さを、今日の活動を通して一緒に考え、全国に広めていきましよう」とあいさつした後、



▲記念セレモニーでスギを間伐する須藤さん

大切な森をみんなで育てよう

また、会場では親子木工教室として、佐藤知事と一緒に間伐材を使ってのベンチ作りが行われたほか、間伐材を利用して製作された木工クラフト作品も展示されました。

この後、参加者は15班に分かれ、指導員に手ほどきを受けながらノコギリを使ってコナラやヒノキの間伐と枝打ち作業を行いました。

昼食をはさんで午後に行われた森林環境セミナーでは、佐藤知事が地球温暖化等の環境問題に対する国・県の取り組みを紹介したほか、「21世紀は水の時代。美しい川や湖は森が育んできたものであり、これからも大切に守っていかねければならない」と、森に対する思いや必要性について講演し、参加者らは熱心に聞き入っていました。



▲自分達が作った丸太のベンチに知事と一緒に座る鎌田さん（写真左）と杉岡さん（写真右）

木工教室に参加して

草野小学校 緑の少年団

杉岡 明香さん（草野）
鎌田麻亜耶さん（草野）

ベンチ作りは、切った丸太をつなぎ合わせる時、力を入れて釘を打たなければならず大変でした。でも、思ったより簡単にできて楽しかったです。育樹祭に参加して、森の大切さが良く分かりました。



▶森の大切さなどについて講演する佐藤知事